

1:26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、

1:27 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。

1:28 また、彼らが神を知ろうとしがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。

1:29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、

1:30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、

1:31 わきまのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。

1:32 彼らは、そのようなことを行なえば、死罪に当たるといふ神の定めを知っていながら、それを行なっているだけでなく、それを行なう者に心から同意しているのです。

神を認めないということは、自分を神の代わりにしているということです。ですから自分が主です。その結果、自分の欲望が主になってしまうという現実があります。ですから神を認めないということは、欲望ゆえに罪に陥るのです。「恥ずべき情欲に引き渡されて」しまうのです。

神を信じるかどうかは本人に委ねられています。だからといって、信じなくてもよいというのではなく、信じなければ罪に陥るのだということを、認め

ざるを得ません。

信仰は自由だからといって、愛する人に伝道しないのは、単なる言い訳にしか過ぎません。自由だからこそ、その人が自ら信じられるように、愛をもって心を砕いて伝道するのです。救いのために祈りましょう。今は何ができるでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

